

## 事業の背景・目的

環境省とJAZAとの間で締結された「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づいて国の「ライチョウ保護増殖事業」に参画し、当園のライチョウ保全プロジェクト事業を進めている。生息域外保全の取り組みとして、試験飼育個体群を必要最低限の一定程度の範囲内の羽数で飼育管理しながら、野生復帰を見据えた飼育・繁殖技術の確立を目指す。



野生のライチョウ

## 事業の内容

ライチョウの飼育下繁殖に取り組み、その飼育繁殖技術を確認し、生息域外保全や野生復帰につなげ、種の保存を図ることを目標としている。

### 事業① 飼育下繁殖の実施及び技術確立

- ・ライチョウの飼育下繁殖を実施しながら、科学的知見を集積し、飼育下繁殖技術を確認させる。さらに、野生復帰を見据えた継続的な知見・技術蓄積（ウイルス・細菌対策を含む）に努め、ライチョウの飼育技術確立と開発を推進する。
- また、試験飼育個体群、保険個体群の確立と維持を目指す。

### 事業② 普及啓発

- ・関係機関等の了承を得た上で、ライチョウ及びスバルバルライチョウを各飼育施設で展示し、ライチョウの現状や保護増殖の取り組みなどについて効果的な普及啓発活動を推進する。



スバルバルライチョウの生体展示  
(左;夏 右;冬〈屋外〉)

## 得られた成果

平成30年度の試験個体群の飼育下繁殖では、当園でヒナの孵化育雛に成功し、成育した個体を専用飼育ケージにより飼育スペースを確保して飼育管理している。飼育個体数も順調に増加し、飼育技術は向上していると考えられる。他の園館との連携により試験飼育個体群の確立に向けた取り組みも進んでいる。また、ライチョウが生息する地元の動物園として、これらの取り組みについて、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどを用いて発信するとともに、別亜種スバルバルライチョウの展示とパネル展示により、ライチョウの生態や現状、保護および自然環境保全の重要性について伝えることができているものと考えられる。今後も、全体の事業計画の進捗状況により順応的に第2段階（保険個体群の確立・維持）、第3段階（野生復帰個体群の創出及び確保）を並行しながら、本事業も見直ししながら進めていく。



平成30年6月13日  
に孵化したヒナ  
(孵化直後)



平成30年6月13日に孵化した  
ヒナ（孵化後6か月）